

東アジアの国際関係と安倍外交

東京大学大学院法学政治学研究科教授

藤原 帰一

- * 日米関係の緊密さは野田政権が上
- * 海洋戦略と核心的利益の関係
- * 海の権益「取り戻す」が中国の認識
- * 英国の歴史事例に当てはめる
- * 中国は本場に脅威なのか
- * 成果大きい発展途上国外交
- * 尖閣にかかわりたくないアメリカ
- * オバマ大統領は内政優位の人
- * 日本主導の集団的自衛権
- * ブレーキの踏み方も覚える必要



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）
今日はおなじみの藤原先生に来ていただきました。8年前に石橋湛山賞を受賞されて、ここで記念講演をされましたが、ほぼ毎年おいでいただいておりますので、皆さんにはご紹介の必要もないと思います。

安倍政権は国際関係も一応順調なように見えます。しかし、難題を抱えておりますし、周囲の状況も刻々と変わっておりますので、今日は東アジアの情勢と安倍外交につきまして、明快な分析をしていただきたいと思います。

先生、よろしくお願いたします。（拍手）

藤原 たいだいまご紹介にあずかりました藤原でございます。何度もここでお話をする機会に恵まれますと、何かお家に帰ってきたような気

がいたします。（笑）お家に帰ってきたのはいいのですが、毎回違う話をしたいのは当たり前でして、その点で繰り返しがないように注意しながら、しかしそこで奇をてらってためを並べるわけにはいきません。ですから当たり前のことですが、比較的スタンダードな課題を立てました。「東アジア国際関係と安倍外交」というテーマです。

安倍外交というお話ももちろんいたしますけれども、その出発点にあるのは、東アジアの国際関係がどんな状態にあって、どんな課題を抱えているのかです。それに関係して、中国、アメリカ、韓国、この三方国だけではなくて、東南アジアも地域として大事ですし、中東も重要です。時間の関係もありますから、このあたり